

2025年度社会学研究科研究指導概要一覧			
研究指導分野	担当者	カナ	研究指導概要
メディア表象論、メディア社会文化史	橋本 晃 教授	ハシモト アキラ	日本のマスメディア、メディアの日本語表現、インターネット時代のメディア、メディア社会文化史、比較メディア論などの指導を行う。
家族社会学、歴史社会学、家族研究学説史	本多 真隆 准教授	ホンダ マサタカ	家族、親密な関係に関する現象について、質的研究(インタビュー調査、歴史研究など)、理論研究の指導を行う。
メディア研究、文化研究、国際コミュニケーション論	黄 盛彬 教授	ファン ソンビン	(1)ニュースおよび世論現象に関する分析、(2)メディア・コミュニケーションのグローバル化に関する研究。メディアフレーム分析、質的言説分析、フィールドワーク、インタビュー調査などの研究方法を用いて研究できるように指導を行う。
労働社会学、比較労使関係論	李 旻珍 教授	イ ミンジン	グローバル経済、サービス経済、知識経済における多様な雇用形態、仕事の自律性、柔軟な働き方、ジェンダー格差、ワーク・ライフ・バランス問題、外国人労働者、職場民主主義、社会運動(あるいはコミュニティ)ユニオニズムなどを研究テーマとする院生の指導を行う。量的研究と質的研究の両方について指導する。
音楽社会学	井手口 彰典 教授	イデグチ アキノリ	これまで蓄積されてきた音楽社会学の主要な理論と、個別の音楽現象を具体的に調査研究していく上での実証的技法とを、一方に偏ることのないよう統合的に指導する。
メディア社会学、メディア史	井川 充雄 教授	イカワ ミツオ	マス・コミュニケーションやメディアについて、理論と実証の両面から研究を進められるように指導する。とりわけ、現代的な課題についても、その歴史的背景を考慮した研究ができるように指導を行う。
国際社会学、エスニシティ論	石井 香世子 教授 (2025年度研究休暇)	イシイ カヨコ	エスニシティ論の視座から、移動・境界(域)・マイノリティに関する理論をふまえて、さまざまな様態の移動と、マイノリティに関する調査研究の指導を行う。
ライフストーリー研究	石川 良子 教授	イシカワ リョウコ	研究テーマ・フィールドにかかわらず、語り手と聞き手の対話を通して(ライブ)を捉えることを重視した指導を行う。
理論社会学、アイデンティティ論/コミュニケーション論、現代文化批評	片上 平二郎 教授 (2025年度秋学期研究休暇)	カタカミ ヘイジロウ	社会学理論(主に批判的 sociology)の視座を重視しながら、アイデンティティ、コミュニケーション、現代文化といったものについて研究を進めてきた。現代社会や現代文化に対する関心を、理論的視点と交錯させながら、社会的考察を深めることをしていきたい。
計量文献学、Webスタディーズ	川畑 泰子 准教授	カワハタ ヤスコ	社会における多様な事象はWeb上で擬似的に観測が可能となりつつある。一方でフェイクニュースなど、個人の情報リテラシーがより一層求められつつある。Web上のデータを用いた先行研究を輪読しつつ、新たな考察に繋がる調査などを行って現代社会における一つの理解の切り口を紐解いていきたい。
メディア・コミュニケーション論、ネットワーク社会論	木村 忠正 教授	キムラ タダマサ	ソーシャルデータ、大規模ログデータ、社会調査データをもとにしたメディア・コミュニケーション論、比較制度分析の視点を重視したネットワーク社会論について、理論と実証、質的研究と量的研究との対話を重視しつつ指導する。
文化人類学、ディアスポラ研究、地域研究(中華圏)	木村 自 教授	キムラ ミヅカ	文化人類学の理論的動向を踏まえ、人の移動、ディアスポラ、国境を越えたコミュニティ、マイノリティについて、質的調査に基づく指導を行う。
宗教社会学	小池 靖 教授	コイケ ヤスシ	宗教社会学、心理主義論の研究指導。主に質的調査に基づく。
文化社会学、文化政策研究、現代芸術論	小泉 元宏 教授	コイズミ モトヒロ	美術・音楽・映像・パフォーマンスなどの諸芸術・文化をめぐる場や活動と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する各自の問題意識やテーマに基づきながら、文化批評理論、現代芸術論、文化政策研究などの理論的研究と、質的研究、および実践活動への参加を通じた指導を行う。
情報行動論、エスノメソロジー	是永 論 教授	コレナガ ロン	趣味的な文化活動や家庭でのメディア利用といったテーマに関して、文化資本論、オーディエンス論、言説分析、エスノメソロジーといった学問的背景から考察するとともに、量的なデータ解析またはエスノグラフィーを含む質的調査技法についてそれぞれ指導を行う。
エスニック・メディア研究、オルタナティブ・メディア研究	林 怡菴 教授	リン イーシェン	マスメディア理論、ジャーナリズム研究などの観点から、社会におけるマイノリティをめぐる報道や当事者によるメディア形成活動を中心に、理論的研究と質的調査の指導を行う。
エスノメソロジー、医療社会学	前田 泰樹 教授	マエダ ヒロキ	日常生活から始まって、病いの経験やケアの実践などにいたるまで、私たちの経験や行為の理解にかかわるテーマに対して、エスノメソロジーを中心とした質的研究を行っていくための指導をおこなう。
計量社会学、階級・階層・移動	三輪 哲 教授	ミワ サトシ	計量社会学にかかわる研究にかんじて、研究計画と構想、データの収集や選択、分析技法の基礎と応用、結果の解釈と結論の導出に至るまで、総合的に指導を行う。とりわけ、縦断的研究法の利活用を重視する。理論的には、階級・階層・移動の社会学理論に依拠するが、それとかわる範囲であればテーマは問わない。
移住の社会学、グローバル社会論	水上 徹男 教授	ミズカミ テツオ	マイグレーションに関する研究、とくに国際的な人の移動に着目する。エスニック・コミュニティの形成、その変貌をとらえる理論や概念、これまでの実証的な研究成果を参照とする。政策的には多文化主義等の展開、概念的にはトランスナショナルリズム等を扱う予定である。
教育社会学、社会階層論	中澤 渉 教授	ナカザワ ワタル	広く教育にかかわる現象(学校教育、家庭のしつけや社会化、教育機会の不平等、進路選択、教員組織、教育改革、高等教育、就職、企業内教育や職業訓練など)についての実証研究について指導する。方法論は、量的方法、質的方法いずれでも構わない。
地域社会学、まちづくり・地域再生論	西山 志保 教授 (2025年度研究休暇)	ニシヤマ シホ	地域社会学、都市社会学の様々な理論をふまえて、コミュニティにおける政府セクター、市場セクター、市民セクターの間のガバナンス形成に関する研究の指導を行う。
社会政策論、福祉社会学	野呂 芳明 教授	ノロ ヨシアキ	都市社会学、地域社会学、福祉社会学等の観点から、社会のさまざまな生活場面で生成するニーズと地域政策や福祉政策との相互関連性に関する調査研究の指導を行う。
サステナビリティ研究、経済社会学	大倉 季久 教授	オオクラ スエヒサ	サステナビリティ、環境政策に関わるテーマを中心に、経済社会学や環境社会学をはじめ、関連の深い社会学領域の視点と方法をふまえた研究を行うための指導を行う。
都市、人文地理学、ジェンダー研究	太田 麻希子 教授	オオタ マキコ	都市に関する地理学及び社会学の理論、フェミニストによるグローバリゼーション分析を踏まえた研究指導を行なう。
消費社会論、歴史社会学、現代社会論	貞包 英之 教授 (2025年度春学期研究休暇)	サダカネ ヒデユキ	消費社会という視点から、現代社会について分析できるように指導する。対象に対して歴史的視点と、都市という視点を複合して、消費社会の新たな可能性について考えられるようにしたい。
環境社会学、環境社会論	関 礼子 教授	セキ レイコ	(1)環境を関係性の概念と捉えて、(2)生業、生活、地域史や地域文化における人と自然との相互作用に着目しつつ、(3)社会的なイシュー/事象としての環境理解を踏まえた指導をする。
ジェンダー/セクシュアリティの社会学、クィア・スタディーズ	杉浦 郁子 教授	スギウラ イクコ	格差や不平等が顕著な事象について、フェミニズム・クィア理論の視座を踏まえた質的研究を進められるように指導を行う。
メディア制度・産業論	砂川 浩慶 教授	スナカワ ヒロヨシ	マスメディアを中心とするメディアに関する制度、ジャーナリズム、産業、コンテンツ政策などの諸点から考察を行い、指導を行う。

都市社会学、ハウジング研究	高木 恒一 教授	タカギ コウイチ	都市に関わる領域のうち、社会-空間構造、都市社会運動、都市政策、ハウジングなどを中心に指導を行う
デジタル・メディア研究、情報社会論	和田 伸一郎 教授	ワダ シンイチロウ	テクノロジーの進歩によって、インターネット上で次々に現れる諸サービスが、グローバル市場を背景としながら、社会とどのような形で関わる、もしくは摩擦を起こすのかについて、多角的な理論的観点から考察をおこない指導をおこないつつ、受講生とともにSNSデータ分析を中心とした調査についてもおこなってきたい。
マイノリティ研究、社会運動論	山本 崇記 教授	ヤマモト タカノリ	多様な社会的マイノリティにフォーカスし、生活史、アイデンティティ、社会实践など、その動態を捉えるための理論・調査法・データ分析について指導を行う。